

今後の取組について

①地域間・「GREEN×EXPO 2027」連携による広域観光の促進について

令和7年3月12日（水）

観光ビジョン推進関東ブロック戦略会議事務局



Edo Shogun Roads



関東運輸局

Kanto District Transport Bureau

第8回 観光ビジョン推進関東ブロック戦略会議 実施報告(参考)

「明日の日本を支える観光ビジョン」の目標実現に向け、地域の観光資源を最大限に活用し、観光業界の成長を促進するため、地域の課題解決や観光振興に向けた具体的な戦略や計画の策定について協議を行う場として平成29年より継続開催。本年は横浜第二合同庁舎共用第一会議室にて対面開催。

開催概要

- 日時 : 令和6年3月4日(月) 14:00-16:00
- 場所 : 横浜第二合同庁舎共用第一会議室 ●事務局 : 関東運輸局・関東地方整備局
- 参加者 : 計46団体(経済・観光関連団体、観光関連企業、都県・政令市、国機関など)
- オブザーバー : 観光庁観光地域振興部観光地域振興課 安部課長
- 取組発表 : (公社)2027年国際園芸博覧会協会 推進戦略室 脇坂室長



議事

【GREEN×EXPO2027】ロゴマーク

- (1) 観光ビジョン推進関東ブロック戦略会議WGの取組状況について
- (2) 令和5年度 各課題への構成員の取組状況について (3) 今後の取組みについて (4) 意見交換



実施結果

- 議事(1) 令和5年度のブロック戦略会議WGの取組状況について構成員から承認をいただいた
- 議事(2) 取組状況について東京管区気象台、関東総合通信局、関東地方整備局、関東運輸局から事例紹介がなされた
- 議事(3) 今後の取組みについて、(公社)2027年国際園芸博覧会協会から「GREEN×EXPO 2027」の概要説明がなされた後、事務局からブロック戦略会議における観光施策の当面のテーマ「**地域間・『GREEN×EXPO 2027』連携による広域観光の促進**」および、観光資源魅力向上WGを活用した各施策の検討を促進することについて提案し、構成員から同意を得たため、今後、同WGを活用した検討を行い、2027年の開催に向けて関係者によるさらなる連携を促進していくこととなった。

※令和6年度実証事業

背景・目的

令和5年3月策定の第4次観光立国推進基本計画においては、「持続可能な観光」「消費額拡大」と合わせて「地方誘客」がキーワードに掲げられているところ。広域関東ブロックにおいてもより一層の地方誘客が重要となっている。

この広域関東ブロックにおける地方誘客を促進するためには、各地域が個別に誘客するだけでなく、各地域の魅力的な地域資源を活用した異なる体験を組み合わせることにより、独立するコンテンツの付加価値（魅力）を高め、国内だけでなく国外の観光客にとって魅力的な周遊観光に繋げていくことが重要である。また、各地域の資源を活用したコンテンツを体験し、周遊してもらうことで滞在日数の増加、旅行消費額の増加も期待される。

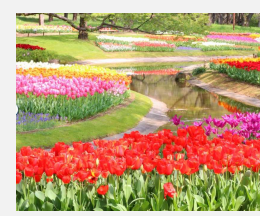
このような中、令和9年に横浜で開催される「GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）」を観光の起爆剤として活用することが効果的であると考えられる。

そこで当事業では、広域関東ブロックにおけるインバウンドの周遊観光を促進する仕掛けとして、日本独自の四季折々の花や多様な自然といった地域資源である「GREEN」をテーマとした体験型観光で地域間を繋げるモデルルートの調査・検証を行う。広域関東ブロック全体で「GREEN×EXPO 2027」の機運を醸成し、相乗効果によって一層の来訪を促し、地域関係者が主体となった持続的な地域間連携を図ることで、広域関東における地方誘客や観光満足度の向上に繋げることを目的とする。その際には、街道を活用した「江戸街道プロジェクト」と連携することとし、本事業とともに広域観光の取組を促進していく。

事業概要

- 1 モデルルートの構築**
 - 日本の花に関心がある、インバウンドターゲット層の分析
 - 地域資源（体験型観光）に関する調査、分析
- 2 モニター調査の実施・検証等**
 - インバウンド向けインフルエンサーにモニターツアーを実施
 - 参加者にアンケート調査を実施
- 3 情報発信及び効果測定**
 - 海外向けウェブメディア、SNSメディア、インフルエンサーによる情報発信
 - PV、リーチ数などの数値による計測から結果を考察
- 4 事業評価と事業モデル化**
 - 事業の評価、課題解決方法などのとりまとめ
 - 地域の自走可能モデルの提示

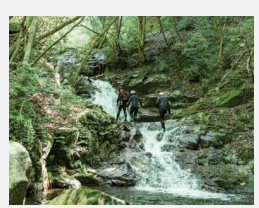
体験型観光 イメージ（仮）



花畑や庭園で、日本の四季を感じてもらふフォトツアー体験。



伝統的な生け花を学び、実際に自分でアレンジメントを作成する体験。



アクティビティを通して、自然と文化を体験。



花を育てている農家を訪れ、栽培方法や歴史を学び、地元の文化や食を楽しむ体験。

次年度以降の展開方法の検討

「江戸街道プラットフォーム（仮称）」のみどころコンテンツとして「体験型観光」による周遊ルートを紹介。事業の認知度を高め、コンテンツ数を増やしていくことで地域間の更なる連携を図り、きたる「GREEN×EXPO 2027」に向け基盤を構築する。

モデルルート①成田空港から千葉・茨城 成田街道/水戸街道 GREEN旅

○国内を代表とするゲートウェイ成田空港を起点に、成田から水戸まで江戸時代からの伝統文化、季節の花や農業体験など日本のGREENな魅力を多角的に楽しむことができるコース



1日目

成田空港発

JALアグリポート (体験)



出典：JAL Agriport(株) HP

成田空港近くの農園と農家レストラン、1年を通して季節のフルーツ狩り（いちご狩り等）や野菜の収穫体験が楽しめる。古民家をリノベーションしたレストランでは、自社農園で栽培した新鮮な果物のほか、近隣地域の食材を使用した料理を堪能できる ※いちご狩り開催期間：例年1月～5月

房総のむら (体験)



出典：千葉県立房総のむらHP、(公財)ちば国際コパ・ソニック・ユーロ-HP

江戸後期から明治初期の近世房総の町並みが再現、見て、触れて、体験できる歴史体験博物館。農作業体験をはじめ、和紙すき体験、千代紙ろうそく作り、甲冑試着、茶道、そばうち、太巻き寿司作り、しぼり染めなど季節に応じた体験ができる

成田山新勝寺/成田山公園 (見学)



出典：成田山新勝寺HP

成田山新勝寺は1080余年の歴史をもち、江戸時代から人々の信仰を集める全国有数の寺院。成田山公園は、春の訪れを告げる梅、桜、新緑と秋の紅葉、雪景色など、四季折々の表情を楽しむことができる

泊（水戸市内）

2日目

水戸市内

国営ひたち海浜公園 (見学)



出典：観光いばらきHP

花と緑に囲まれた国営ひたち海浜公園。春にはスイセンやチューリップ、ネモフィラ。夏にはバラ、ジニア、ヒマワリ。秋にはコキアやコスモスと四季折々の草花が、訪れる人々の目を楽しませてくれる
※写真はネモフィラ 開花時期：例年4月中旬～5月上旬

偕楽園/弘道館 (見学)



出典：偕楽園HP、弘道館HP

弘道館は、水戸藩第9代藩主徳川斉昭が、1841年に開設した日本最大規模の藩校。藩士が弘道館で文武をしっかり修業した後は、心身をゆっくり休めて鋭気を養ってほしいと考え、一対の教育施設として偕楽園を創設。偕楽園は日本三名園のひとつに数えられる梅の名所で、広大な園内には約100品種3,000本の梅が植えられている
※水戸の梅まつり開催期間：（令和7年）2月11日～3月20日

水府提灯体験 (体験)



出典：鈴木茂兵衛商店HP

江戸時代から続く水府提灯の伝統を継承した提灯づくり体験。水戸藩の下級武士が生活のために内職として当時の生活必需品であった提灯を作り始めたことが、水府提灯の始まりとされている

水戸駅着

モデルルート②埼玉・栃木 日光街道/中山道 GREEN旅

○GREENをテーマに自然と共生してきた日本の伝統文化の体験や江戸時代から続く歴史的な街道を巡るコース



1日目

大宮駅発

大宮盆栽美術館 (見学)



出典：さいたま市HP

盆栽文化振興の核となる施設として、世界に誇る盆栽の名品の展示による盆栽文化の紹介などにより、国内外に向けて情報を発信。常に約60点の盆栽が展示され、様々な角度から盆栽を鑑賞することができる

大宮盆栽村 (見学)



出典：大宮盆栽村HP

1925年に開村し、盆栽の聖地として世界中から愛好家が訪れる場所となり、令和7年に開村100周年を迎える大宮盆栽村での盆栽づくり体験。毎年5月には大盆栽まつりが開催され、全国から訪れる多くの盆栽愛好家で賑わう

若竹の杜 若山農場 (体験)



出典：とちぎ旅ネットHP

世界遺産日光へと続く日光街道の傍らに、隅々まで手入れがされ、見渡す限り続く圧巻の竹林。日本一の面積を誇る竹林は、国内でも希少な空間で、映画やCMのロケにも使用されている。竹灯籠を散策した後は、実際に竹灯籠づくり体験ができる
※夜の竹林ライトアップ点灯時間：日没時間の30分前

泊
(宇都宮市内)

2日目

宇都宮市内

日光杉並木街道 (見学)



出典：日光市公式観光WEB

日光東照宮の参道並木として寄進され、日本で唯一、国の特別史跡・特別天然記念物の二重指定を受けており、令和7年、植樹から400年を迎える長い歴史が刻まれている街道である

mekke 日光郷土センター (体験)



出典：mekke 日光郷土センターHP

日光の歴史や伝統芸能の展示、観光案内所があり、なめらかで柔らかな肌触りが特徴の日光産の鹿革や角を使い、クラフト体験ができる。自分だけのオリジナル作品を制作。

日光東照宮 (見学)



出典：日光市公式観光WEB

日本を代表する世界遺産「日光の社寺」その中でも最も有名な「日光東照宮」は徳川家康公が祀られた神社。境内には国宝8棟、重要文化財34棟を含む55棟の建造物が並び、その豪華絢爛な美しさは圧巻である

東武日光駅着

モデルルート③神奈川発 東海道 GREEN旅

○江戸時代の建造物が残る庭園、着物文化、梅の花、富士山や相模湾の絶景など、日本の伝統とGREENな景観を楽しむことができるコース



1日目

横浜駅発

三溪園 (見学・体験)



出典：三溪園HP

重要文化財に指定された江戸時代の建造物が残る園内を着物で散策するとともに、精通したガイド、カメラマンによる撮影による見学体験。また、歴史的建造物の茶室に特別に入り、日本茶インストラクターによる本格的な抹茶体験を通して日本の文化に触れる ※梅の開花時期：例年1月中旬～3月上旬

大山・宿坊 (体験)



出典：神奈川県公式観光サイト 神奈川観光Now

落語「大山詣り」や多くの浮世絵にも描かれた大山は、江戸庶民からの阿夫利神社や雨降山大山寺への熱い信仰で発展し、それとともに参拝者が宿泊する宿坊や土産物屋などが栄えてきた。宿坊への宿泊体験を通して、地域の歴史と伝統文化を学び、地元の大豆と湧き水で作られた「大山とうふ」を使用した郷土食を味わう。夕食後にはキャンドルに囲まれて行う「キャンドルナイトヨガ」を体験

泊
(大山・宿坊)

2日目

大山・宿坊

大山阿夫利神社 (見学・体験)



出典：神奈川県公式観光サイト 神奈川観光Now

平成27年にはミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで大山阿夫利神社からの眺望が星2つに認定され、平成28年には「大山詣り」が日本遺産に認定される観光地。四季折々の自然が楽しみ、人気の景勝地でもある、大山阿夫利神社にて、インストラクターの案内の基で歴史ある「大山詣り」の山歩きと参拝をした後に、境内での「大山ヨガ」を体験

大山ケーブルカー (見学)



出典：神奈川県公式観光サイト 神奈川観光Now

丹沢大山国定公園内にある大山ケーブルカーは、大山ケーブル駅から阿夫利神社駅までの全長0.8km標高差278mを所要時間6分で結ぶ

曽我梅林/小田原城址公園(小田原梅まつり) (見学)



出典：小田原市観光協会HP

富士山と箱根の山々を背景に約3万5千本の梅が咲き誇る曽我梅林と、天守閣や同門、常盤木橋を背景に約250本の梅が咲く小田原城址公園を巡る
※小田原梅まつり 令和7年) 2月1日～2月24日

小田原駅着

「GREEN」をテーマとした体験型観光による広域観光促進に関する実証事業

モニター調査の実施（2月6日～10日）



JALアグリポート



偕楽園



大宮盆栽村（清香園）



若竹の杜



三溪園



曽我梅林

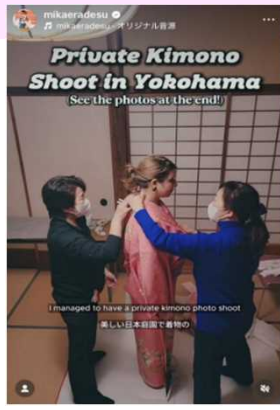
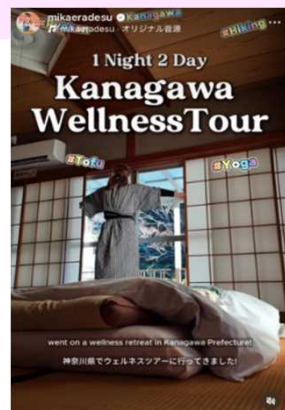
- ・構築したモデルルートを対象としたモニターツアーを実施
→台湾・米をターゲットとして4名（インフルエンサー等）にご協力いただく



- ・盆栽作り、竹灯籠作り、いちご狩り等のGREENを題材とした体験コンテンツが好評であった
- ・体験だけでなく、その地域や各スポットの歴史・文化、背景等のガイドにより、旅行者にとって新たな学びや気づき、満足度の向上につながるとみられる
- ・一方では、多言語対応や自然ならではの天候、季節に配慮した体験の提供への対応が考えられる 等

情報発信・効果測定

- SNSの関連動画の総閲覧数
- ・約3.6万回(令和7年2月末現在)
- 庭園の美しさや盆栽への関心等のコンテンツの魅力に共感いただくコメントも多数みられた



事業評価・モデル化

- ・ GREENを題材とした体験を軸としながらも、地域の文化や歴史を融合させることで、より深い観光体験を提供することが可能と考えられる。その手法として、今後更に街道を活用した江戸街道プロジェクトとの連動を検討していきたい。
- ・ 各コンテンツの歴史・文化、背景等の新たな学びや気づき、地域の魅力を伝えるガイドは、旅行者の満足度向上のためには重要な役割を担っている。
- ・ このほか、多言語対応、天候に左右されない屋内での体験プログラムの検討、滞在期間延長や消費拡大の効果が期待できる地域間連携の強化等も踏まえ、引き続き、広域観光促進に関する取組（モデルルート調査、検討等）を推進していく。

令和6年度 街道観光ポータルサイトの本格運用に向けた取組状況

目的

江戸街道プロジェクトのプロモーション展開の柱の一つとして、街道観光に関する情報を一元化したポータルサイトの構築が急務。令和5年度に実施した調査を踏まえ、恒常的なサイト運営を確実なものとするため、改良版となる検証サイトを立ち上げ、令和7年度以降の本格運用に向けた内外への周知やサイト運営に関わる関係者との関係性を構築する。

内容

- 改良版検証用サイトの作成
- 検証用サイトの運営・管理
- 効果検証

実施結果

- 改良版検証用サイトの立ち上げ
(令和7年3月運用開始予定)
- 内外への周知
(関東ブロック戦略会議ほか)
- 関係者との関係性構築
(ブロック戦略会議構成員によるリンク掲載、(一社) 関東広域観光機構との調整を開始)

仕様・コンテンツ

- プロジェクト紹介ページ (継続)
- 特集記事 (継続)
- 街道観光MAP (新規)



- モデルルート紹介 (新規)



「GREEN×EXPO 2027」を契機とした広域観光の促進に向けた方針

【目的・趣旨】

- 関東ブロック全体で「GREEN×EXPO 2027」の機運を醸成し集客の増加を図るとともに、「**GREEN**」をテーマに地域間のさらなる**連携**による成果（周遊ルートなど）を来場者に向けて披露すること等によって、**相乗効果**を目指す。
- その際には、繋がりや賑わいを想起させる街道を活用した「**江戸街道プロジェクト**」と連動して取り組む。

※「GREEN」・・・「植物」「花」「緑」を総称する言葉

【方向性（戦略の柱）】

- 地域資源を活用したコンテンツの洗い出し
例）地域資源の調査・分析 等
- コンテンツの磨き上げ
例）豊かな自然を体験するためのプログラムの充実・強化等
- コンテンツを組み合わせた周遊ルートの構築
例）各主体と連携したルートの構築 等



花畑や庭園で、日本の四季を感じてもらい、ガイド付き見学やフォトツアー体験。



伝統的な生け花を学び、実際に自分でアレンジメントを作成する体験。



花を育てている農家を訪れ、栽培方法や歴史を学び、地元の文化や食を楽しむ体験。

・地域連携の構築
・誘客の促進
・地域活性化

【スケジュール】

2024年度

2025年度

2026年度

2027年度

● GREEN×EXPO 2027

コンテンツの洗い出し
コンテンツの磨き上げ
周遊ルートの構築

コンテンツの調査・モニターツアーの実施等

- 国の実証事業
- ・モデルルートの構築
- ・モニター調査、検証
- ・情報発信、効果測定 など

- 実証事業も踏まえたルート構築
- 関係機関によるルートのPR

情報発信・ルート周遊等

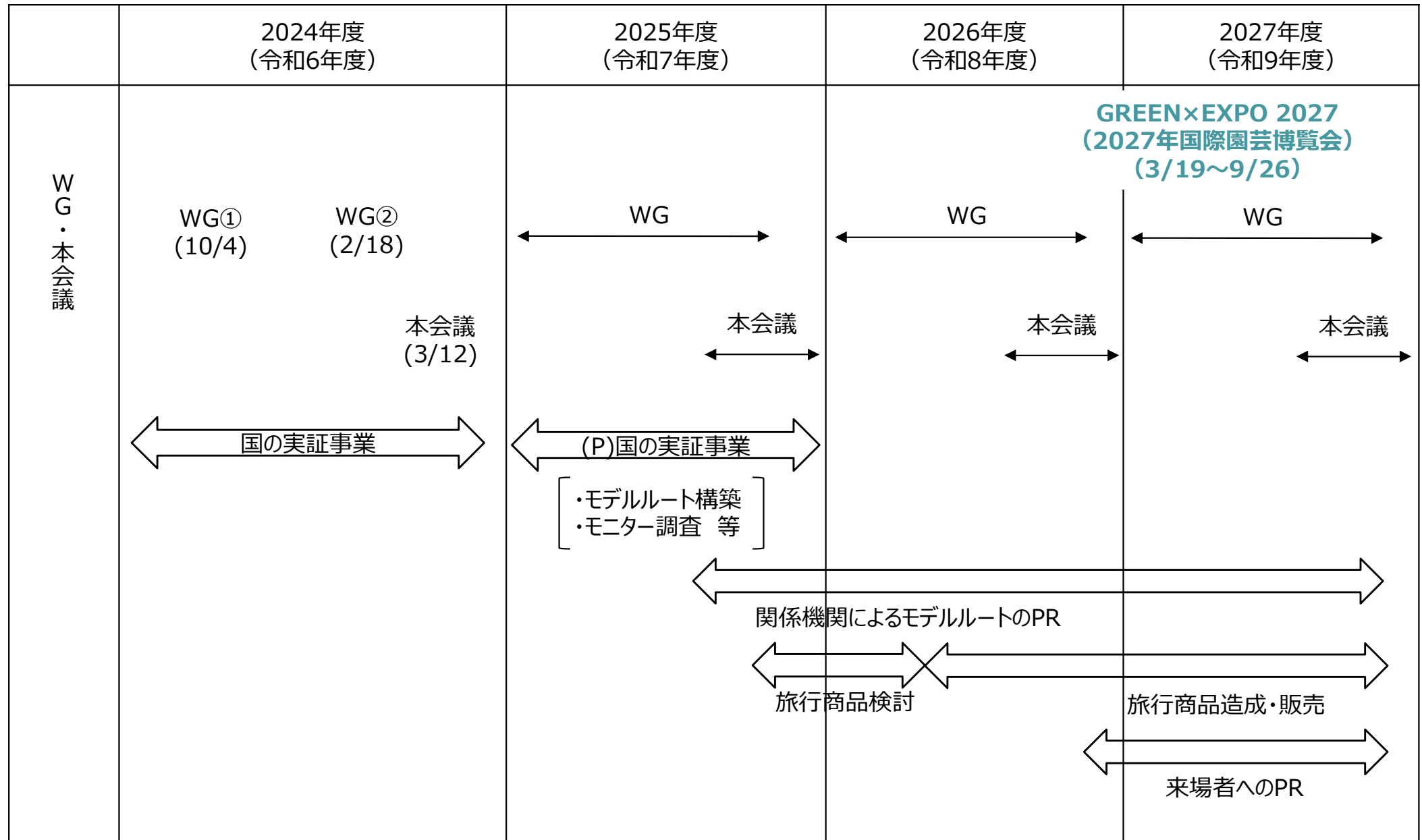
- 旅行商品の造成・販売
- 来場者へのPR

【今後の進め方】

- 連携促進のための協議・検討について、関東ブロック戦略会議（事務局：関東地方整備局・関東運輸局）の「観光資源魅力向上WG」の場を活用する。
- 「GREEN」をテーマとしたコンテンツについて情報収集、磨き上げを行う。
- 誘客促進に資する地域連携の構築について協議するとともに、各種支援メニューの活用や効果的なプロモーション手法を検討する。
- 「江戸街道プロジェクト」においてGREENをテーマとした取組を重点的に行うとともに、「GREEN×EXPO 2027」のPRを行う。
また、EXPO開催時には、江戸街道プロジェクトとともに「GREEN」コンテンツのPRなど、積極的な情報発信を行う。

「GREEN×EXPO 2027」を契機とした広域観光の促進に向けた方針

【今後のスケジュール案】



【令和7年度の取組イメージ(案)】

＜コンテンツ造成＞

- ・「GREEN」を題材とする観光資源（コンテンツやイベント等）調査のご協力願ひ（素材集め）※3/21ㄨ（以降も随時募集）
- ・観光庁補助事業等の支援メニューを活用したコンテンツの強化等の実施

＜モデルルート構築、モニター調査＞

- ・収集した観光資源をもとに、モデルルート構築
- ・なお、モデルルート構築にあたっては、GREEN×EXPO 2027のテーマや江戸街道プロジェクトとも連動を想定
- ・構築したモデルルートについて、モニター調査を行い、効果検証の実施

＜関係機関によるモデルルートPR＞

- ・構築したモデルルートについて、関東ブロック戦略会議構成員において、積極的なPRの実施（例．江戸街道プロジェクト特設サイトや各種HPへの掲載等）



上記取組も踏まえ、令和8年度に旅行商品造成や来場者へのPRを想定